

展覧会開催のお知らせ

長崎剛志／N-tree 28周年記念庭園美術展

原始庭苑

2024年秋、9月28日から一週間、ギャラリー5610(東京青山)にて、長崎剛志／N-tree 28周年記念庭園美術展『原始庭苑』を開催いたします。

長崎は、石、木、空気、人間の根元的な関係によって生みだされる庭を、自ら庭園美術と呼び、表現活動をしてきました。そして、近年の神社仏閣のプロジェクトに携わる中で、幼少期の奈良で過ごした原風景が蘇り、庭の道と結びついたことに気がつきます。それは、石舞台の不自然な形象や東大寺南大門の柱(神)に見える木魂に導かれ、美術の道を歩んだこととも繋がります。飛鳥・奈良時代から1400年が経ち、時代が加速する今日、あらためて現代の神社と寺院の庭園を思惟する上で、長崎は『原始庭苑』というテーマを挙げ、以下のように考えます。

「庭の源流を探すために時代を遡ろうとしても原始にたどり着くことはできない。なぜなら原始は時代とともに今を進み、動くものである。決して原始人や原始美術などの持つ過去に留まったプリミティブティではないはずだ。なぜならそれは、はじまりの創造を意味する。日々の進化のために原始は存在し、人間には原始を生み出す使命がある。したがって原始庭苑は、今にも飛び立つようなエネルギーを持ち、自然のエLEMENTに人間の精や細胞呼吸をも感じさせるものであり、その空間に立つ時、自然に手をあわせたいくなるような気持ちになる庭でなければならない。」

本展覧会は、写真、映像、図面や試作模型、庭を構成する様々な素材を使ったインスタレーション作品、石の彫刻や木板画など、28年間の創作活動を再び組み直すことで見えてくる、〈庭苑-芸術〉のオリジンを提唱する作品展です。また、2025年にかけて、長崎、奈良、マドリッドを巡回する展覧会として開催を予定しております。



諫早神社の御神苑/2024年(11月巡回展 長崎)

◎展覧会について

展覧会名：長崎剛志／N-tree 28周年記念庭園美術展
原始庭苑（げんしていえん）

会期：2024年 9月28日（土）～10月5日（土） 11:00～18:00（会期中無休・入場無料）

会場：Gallery 5610 URL：<https://www.deska.jp>

東京都港区南青山5-6-10 5610番館 Tel:03-3407-5610

オープニングパーティー 9月28日（土） 14:00～17:00

<関連イベント>

●ギャラリーツアー「手で話す。触って話す。」（見えない人、聞こえない人と巡るギャラリーツアー。手話通訳付き。全作品触察可能。）

開催日時：2024年 9月29日（日） 14:00～16:00

会場：Gallery 5610

概要：作家と参加者、さらには参加者同士が自由に意見を交わす、対話によるギャラリーツアーを実施し「原始庭苑」の世界に迫ります。

参加費：無料

定員（先着順）：見えない人、見えにくい人 5名

聞こえない人、聞こえにくい人 5名

その他の人 5名

申し込み方法：以下の項目を明記して下記アドレスまでメールでお申し込みください。
折り返し参加の可否をご連絡いたします。

1) 「9月29日ギャラリーツアー申し込み」

2) お名前

3) 視覚障害、聴覚障害、その他の別

申し込み先メールアドレス mxe02240@nifty.com （担当：太田）

●トークイベント「これからの神社仏閣の庭を考える。」

開催日時：2024年 10月5日（土） 14:00～16:00（手話通訳付き。）

会場：Gallery 5610

参加費：無料

申込み不要

●オープンガーデン

展覧会終了後、東京都杉並区、立川市、千葉県船橋市等で開催予定。

<巡回展>

展覧会名：長崎剛志／N-tree 28周年記念庭園美術展

原始庭苑 長崎 巡回展

会期：2024年 11月1日(金)～4日(月)

会場：諫早神社 URL：<https://n-tree.jp/presentation/isahaya-teien/>

長崎県諫早市宇都町1-12

●庭苑ツアーとトークイベント「これからの神社仏閣の庭を考える。」

開催日時：2024年 11月3日(日)文化の日 13:00～15:00

会場：諫早神社 御神苑

参加費：無料

申込み不要

雨天中止

*2025年にかけて、奈良、スペイン マドリッドを巡回する展覧会として開催予定。

◎お問い合わせ

長崎剛志 / N-tree

東京都国分寺市内藤1-25-32

Tel:080-3317-5028

E-mail: info@n-tree.jp*関連イベント、巡回展の情報は随時ウェブサイト <https://n-tree.jp> にて更新いたします。

自然な庭、不自然な庭。／2018年／東京 立川



西治プロジェクトの茶庭／2024年／千葉 船橋

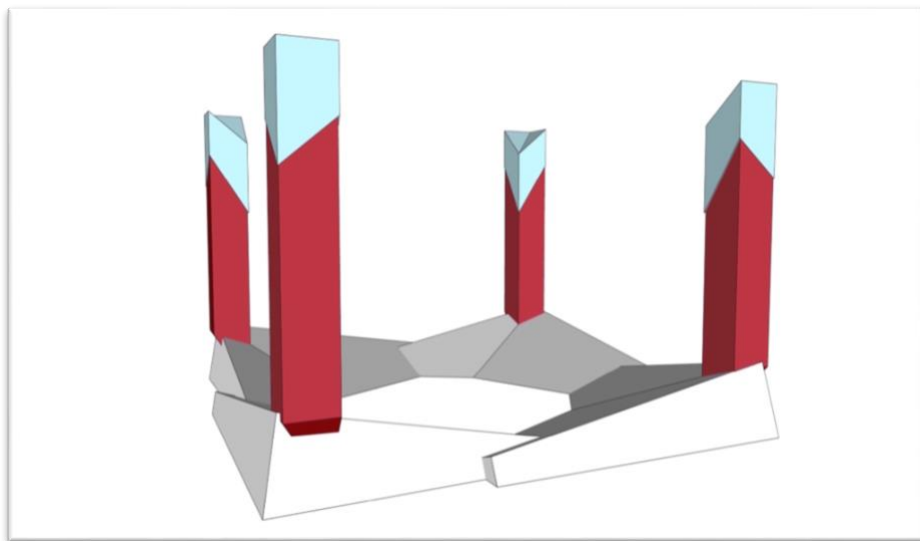
◎展示について

ギャラリー内部には、庭園作品の写真、映像、図面、3D模型、ドローイング他、樹木と人間の関係をテーマにした木板画や「諫早神社の御神苑」の庭苑計画案のために制作された空想の説話集『冥庭集（めいていしゅう）』の原画を展示いたします。ギャラリー中央には、破魔矢をモチーフにした柱の彫刻を四方で囲み、その中に入ることができない空間『原矢神籬（げんやひもろぎ）』を新作として発表します。

ギャラリー外部スペースでは、ギャラリーの庭と連動し、木々を擬人化させたインスタレーション、石燈籠を加工した彫刻、鉄を使った照明作品などに加え、今まで実際に施工された竹、玉石などを型取ったブロンズやガラス素材のオブジェを再構成して展示いたします。

会期中にはモノクロ印刷の庭園美術作品集『原始庭苑』とオリジナルTシャツ『森森磊磊（しんしんらいらい）』を販売いたします。森森磊磊シャツには表面に「木」背面には「石」の文字がプリントされており、展示会場でTシャツを着た人々によって庭の風景を表現いたします。また、作品は来場者の方が全て手に触れて鑑賞でき、様々な素材感に親しめます。関連イベントとして視覚、聴覚に障害のある方と一緒にまわるギャラリーツアーや「これからの神社仏閣の庭を考える」トークイベント、東京近郊の庭園作品のオープンガーデンなども開催予定です。

ギャラリー内外を使い、今までの作品と未来に向けた構想案を織り交ぜて展示することで、N-tree 28年間の庭園像を表現いたします。



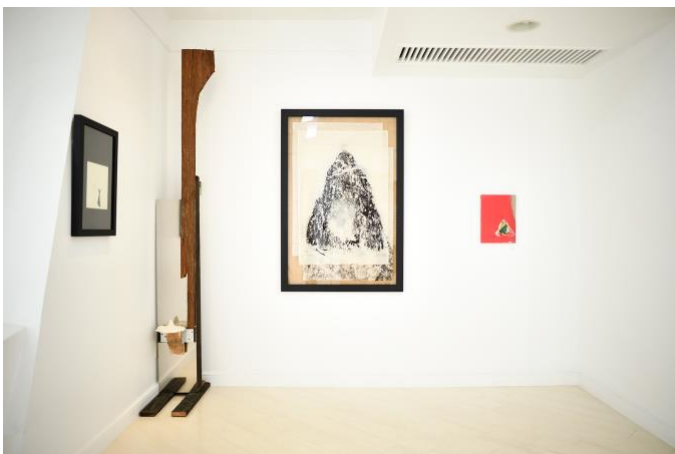
原矢神籬 四柱

◎作家について

長崎 剛志（ながさき たけし）

N-tree代表 庭園美術家、1970年 奈良県生まれ。古都奈良で過ごした幼少期に、建築家の父親に連れられ、身近に神社仏閣に接する。京都東寺にある仏教高校卒業後、東京芸術大学美術学部絵画科に進学。在学中スペインに渡り、マドリッド・コンプルテンセ美術大学で聴講生として油絵を学び、復学後木版画や木彫を始める。1991年から1992年と1994年、ラコタ族（アメリカ・サウスダコタ州）のレザベーションを訪れ、自然・樹木に対する信仰を経験。1995年大学卒業後、独学で作庭を学び、1997年にN-tree（庭ノ心 ながさ木）を設立。その頃から障害者芸術をサポートするエイブルアートムーブメントに参加し、展覧会のキュレーションなどにも関わる。2005年～2007年、石と木によって生みだされる庭の仕事から得た着想をもとに、個展「Seeds(種)」シリーズを発表。2008年～2010年、イギリス・ロンドンでの作庭が“ART GARDEN”として批評され、海外のプロジェクトに繋がっていく。帰国後、東日本大震災では以前からつながりのあった仲間と「復興支援プロジェクト 庭JAPAN」として松島、石巻などで支援活動に取り組んだ。2019年～2024年、長崎県諫早神社の江戸期に作られた庭園を改修した神仏習合の庭「諫早神社の御神苑」が竣工。現在東京を拠点に世田谷の個人邸、ロンドンの集合住宅の中庭など国内外のプロジェクト進行中。

代表作に「黒土と六角錘の庭」（2008年 神奈川） 「Subtracted Garden」（2008年 イギリス） 「Homogenous Garden」（2013年 インド） 「818 Garden」（2013年 フィリピン） 「舟ノ庭」（2015年 東京） 「OGROD POEZJI 計画案」（2016年 ポーランド） 「三業の石据」（2017年 埼玉） 「自然な庭、不自然な庭。」（2018年 東京） 「西治プロジェクトの茶庭」（2024年 千葉） など。主な展覧会として「Seeds 1～5」（2005年～2007年 東京） 「MEMENTO GARDEN」（2009年 ロンドン） 「石と種」展（2016年 東京） など。



「石と種」展/2016年

賞歴

- 2017年 集合住宅 [神楽坂薫木荘] 外部空間担当 GOODDESIGN AWARD2017 受賞
 2007年 ガーデンアーキテクチャーインターショナルアワード best private plot 2007 入賞
 Loisium Visitors' Center, Loisium Allee, Langenlois, Austria
 2001年 平成二畳台目茶室コンペ [土日庵] 入賞・蔵の会賞 受賞 養寿院, 川越, 埼玉

主な作庭

- 2024年 諫早神社の御神苑, 長崎
 2024年 西治プロジェクトの茶庭, 千葉
 2018年 自然な庭、不自然な庭。 , 東京
 2017年 三業の石据, 埼玉
 2016年 集の庭, 埼玉
 2015年 舟ノ庭, 東京
 2014年 雲と山の庭, 山形
 2013年 818 Garden, フィリピン
 2012年 Homogenous Garden, インド
 2010年 Paradise Lost, イギリス
 2009年 Decked in Green, イギリス
 2008年 Subtracted Garden, イギリス
 2008年 黒土と六角錘の庭, 神奈川
 2007年 葉山丘邸 場の形プロジェクト, 神奈川
 2006年 方位の無い庭, 東京
 2004年 鳥海家の墓庭 天ノ庭, 千葉
 2002年 今ノ庭 [間・02], 東京
 2000年 幻想の空間, 東京

主な個展

- 2016年 石と種展 MDP GALLERY, 目黒, 東京
 2009年 “MEMENTO GARDEN” KOUKAN Gallery, Muswell Hill, London, UK
 2007年 “Space of Encounter:New Japanese garden movement”
 The Gallery Alan Baxter, London, UK
 2007年 Seeds-5 “長崎剛志の蒔いた種” Gallery OPEN DOOR, 銀座, 東京
 2007年 Seeds-4 “木を切る答え” Galleria Grafica bis, 銀座, 東京
 2006年 Space-1 “庭と建築の時間軸” PRISMIC Gallery, 南青山, 東京
 2005年 Seeds-2 “樹霊・木魂の復活” PROMO-ARTE Gallery, 青山, 東京
 2005年 Seeds-1 “種 (くさ)のいろ” AU HASARD, 世田谷, 東京

その他の活動

- 2011年 東日本大震災復興支援プロジェクト 庭 JAPAN 活動報告会 東京、ロンドン他
 2004年 N-tree art space project [庭、建築、アートの関係を探る試み]
 1999年 エイブル・アート 99' このアートで元気になる
 サブキュレーター 東京都美術館, 上野, 東京
 1998年 エイブル・アート・コラボレーション 98' VIVIRA [命のはじまり]
 キュレーター&アーティストベネッセコミュニケーション・ギャラリー, 多摩, 東京

哲学・作品写真

長崎は庭のためのアートオブジェをつくる時、自然のもつ美しさに対する感動を、そのままの形に置き換えたいと考えています。その行為はそれらを刻んで形をつくり出すのではなく、それを型取ることにより自然を保持することです。竹、石、葉、などの素材はガラス、ブロンズなどのアートオブジェとして、庭に明かりや潤いを与えるための要素に生まれ変わります。それらのアートオブジェは美しさへの感動と共に庭への思い出（MEMENTO）をも内包しています。その眼に見ることのできない想いを物質化する象徴主義的方法は、禅の精神哲学をもつ日本庭園より影響されたものと言えます。

長崎はこのようにコメントしています。「私の庭に据えるアートはあまり主張をもっていません。浸透して見えなくなるぐらい甘くて曖昧な雰囲気のもので。」

2009年9月 "MEMENTO GARDEN" プレスリリースより



Homogenous Garden
インド ニューデリー
2012



MEMENTO GARDEN
イギリス ロンドン
2009



船ノ庭
東京 墨田
2015



自然な庭、不自然な庭。
東京 立川
2018